

柘原地区の夏の行事 次世代へ



▲復活した仏あがいの様子



▲過去の仏あがいの様子

8月27日、柘原地区の海岸で、今ではあまり行われなくなってしまった^{ぶつ}仏あがいが行われました。これは、海難事故で亡くなった方の供養や、太平洋戦争後は海での戦没者への追悼としてお盆の後にも、改めて丁寧に弔いをするために行われていたそうです（諸説あり）。仏あがいは、砂浜に船やお墓の形を模したものを盛り上げて作り、それに多くの口ウソクや線香を立てて海の方を拝みます。今回は、同地区の真宗寺の学習会で「仏あがいを復活させよう」と声があがり、実施する運びとなりました。当日は約20人が砂浜に集まり、多様な形に砂を盛り上げて、拝みました。真宗寺の中谷さんは「昔と行い方は違うが、私のできる、最も懇ろな方法で行うことができました」と話しました。復活した柘原地区の夏の行事は、次世代へ引き継がれていくことでしょう。

8月23日、柘原地区の海岸で、さざなみ学童クラブの児童16人が、網に絡まった約50センチのウミガメを救出しました。8月中旬の大雨の影響で打ち上げられたゴミの清掃活動をしている際に発見されたもので、運の良い救出劇となりました。宮瀬悠冬さん（柘原小4年）は「網に絡まってかわいそうでした。海にゴミを捨てないでほしいです」と話しました。児童たちは、「竜宮城に招かれるために泳ぎが上手になります」と笑顔いっぱいでした。



ウミガメさん元気でね

夏休みの楽しい思い出！ 「第13回キッズキャンプ」



7月28日と29日の2日間、大野自然学校で第13回キッズキャンプが開催されました。これは仲間と協力して、キャンプを楽しむことを目的に、社会教育課が企画したものです。今回は、市内の小学1年生から3年生までの20人が参加し、テント設営や野外炊事、演習林での川遊びを楽しみました。また、朝食では非常食（アルファ化米）の試食を行いました。児童たちは「様々な体験ができて楽しかったです」「非常食もとても美味しかったです」と話しました。夏を満喫し、楽しい思い出となりました。

8月21日、浮津港、海潟漁港、元垂水港、垂水南漁港（柘原地区）の4カ所で、約5分間疫病退散花火が打ち上げられました。これは、新型コロナウイルス感染症の早期終息等を祈願して、垂水市商工会青年部が主催したものです。当日は3密を避けるため、詳細な場所は告知せず実施しました。商工会青年部は「少しでも、夏を感じて、楽しんでもらえたなら嬉しいです」と話しました。夏の夜空を花火が彩り、心休まるひとときとなりました。

垂水の文化財を綺麗に



8月6日、「垂水島津家墓所」や垂水小近くの「旧有馬邸」等で清掃活動が行われました。これは、文化財周辺環境整備を目的として毎年、垂水史談会と市文化協会が実施しているもので、今回は約25人が参加しました。貴重な文化財を、後世へ伝える取り組みに感謝します。



疫病退散花火
夜空を彩る